

令和 7 年 1 0 月 2 1 日

文教経済常任委員協議会会議概要

委員長 小 倉 尚 裕

副委員長 澁 谷 洋 子

1 開催日時 令和7年10月21日（火曜日）午前9時58分～午前10時32分

2 開催場所 第1委員会室

3 報告事項

（1）青森市ラーケーション あおもり「夢体験休暇」の実施について

（2）令和7年度「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」について

○出席委員

委員長 小倉 尚 裕

副委員長 澁谷 洋 子

委員 相馬 純 子

委員 工藤 夕 介

委員 柿崎 孝 治

委員 村川 みどり

委員 藤田 誠

委員 木下 靖

○欠席委員

なし

○説明のため出席した者の職氏名

教 育 長 工藤 裕 司

市 民 部 長 佐藤 秀 彦

経 済 部 長 横内 信 満

経 済 部 理 事 工藤 拓 実

農 林 水 産 部 長 大久保 文 人

教育委員会事務局教育部長 武井 秀 雄

教育委員会事務局理事 泉 宏 明

農業委員会事務局長 船橋 正 明

市 民 部 次 長 木村 久美子

経 済 部 次 長 横山 明 典

農 林 水 産 部 次 長 坂本 康 人

教育委員会事務局教育次長 角田 毅

関係課長等

○事務局出席職員氏名

議事調査課主査 花田 昌

議事調査課主事 杉浦 晃 平

○**小倉尚裕委員長** ただいまから、文教経済常任委員協議会を開会いたします。

それでは、本日の案件に入ります。

初めに、「青森市ラーケーション あおもり『夢体験休暇』の実施について」報告を求めます。教育委員会事務局教育部長。

○**武井秀雄教育委員会事務局教育部長** 「青森市ラーケーション あおもり『夢体験休暇』の実施について」御説明申し上げます。

令和7年10月15日に開催された第10回教育委員会定例会において、青森市立小・中学校が実施するラーケーションの実施要項が議決されましたので、その概要を報告します。

お手元の資料「青森市ラーケーション あおもり『夢体験休暇』の実施について」を御覧ください。

「1 ラーケーション導入の経緯」については、総務省が2021年に実施した社会生活基本調査によれば、土曜日に働いている方は全労働者全体の約46%、日曜日に働いている方は約30%に上り、休日であっても児童・生徒と保護者が一緒に過ごすことが難しい家庭が少なくない状況となっております。

このことを受け、青森市教育委員会では、保護者の平日の休暇等を利用し、児童・生徒と保護者が、家庭や地域を含めた校外における体験活動等を企画し、豊かな学びを得る機会を、青森市ラーケーションとして確保することとしたものであります。

「2 ラーケーション導入の趣旨」については、(1)児童・生徒が保護者と一緒に、学びの計画を立てることで、児童・生徒と保護者の対話を深めるとともに、家庭の教育力向上に資すること、(2)児童・生徒が保護者と様々な場所に足を運び、豊かな学びを得る機会を創出すること、(3)保護者の休暇に合わせた家族の時間を確保することで、家族での過ごし方について見つめ直す機会とすることとしています。

「3 呼 称」については、青森市ラーケーションを、あおもり「夢体験休暇」と呼び、略称は「夢きゅう」とします。

「4 対 象」につきましては、青森市立小・中学校に在籍する児童・生徒です。

「5 実施時期」につきましては、令和8年4月7日から実施することとし、試行期間として令和7年11月1日から実施いたします。

「6 取得日数等」につきましては、年度内に3日以内としており、青森市立小・中学校で統一して(1)から(6)を除いて学校に申請します。

「7 出欠の取扱い」につきましては、取得期間中は出席扱いとします。

「8 留意事項」につきましては、(1)保護者と児童・生徒が一緒に活動すること、(2)青森市ラーケーションを取得したことで受けられなかった授業内容は、家庭で補うこと、(3)活動場所は自宅でもよいこと、(4)青森市ラーケーションの活動は、学校の管理下外での活動になるため、日本スポーツ振興センター災害共済給付の対象外となることとしています。

「9 今後について」は、試行期間内に各学校から得られた成果や課題を精査し、より充実したあおもり「夢体験休暇」が開始できるよう、引き続き、努めてまいります。

以上であります。

○小倉尚裕委員長 ただいまの報告についての御質疑・御意見等ありませんか。相馬委員。

○相馬純子委員 青森市ラーケーション——いい取組だと思います。

2点質問いたします。「6 取得日数等」のところの、学校に申請するとありますけれども、申請書があるのかどうか。それから、大体1週間前くらいに申請すると各市ではなっているんですけども、そのあたりは本市ではどうなっているのか。

2点目ですけれども、「7 出欠の取扱い」、出席扱いとするとなっていますが、留意事項の(4)では、学校の管理下外での活動ということですが、出席扱いになると管理下外ではないのではないかと単純に思うんですけども、そこをどう考えているのか。出席停止とか忌引等という取扱いのほうが、ふさわしいかなと思うんですけども、いかがですか。

○小倉尚裕委員長 教育委員会事務局教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 まず初めに、申請についてであります、今、相馬委員からあったように、用紙等を用意して1週間前に提出していただくという形をとりたいと思います。また、電子媒体でも受け付けられるよう工夫してまいりたいと考えております。

2点目の出席の取扱いについて、いわゆる学校管理下外になるということで、日本スポーツ振興センターの対象外という捉えですけれども、やっぱり教育課程外でありますので、日本スポーツ振興センターのほうに確認したところ、対象にはならないということです。ただ、我々としては出席扱いにはしたいということで、御理解いただければと思います

○小倉尚裕委員長 相馬委員。

○相馬純子委員 申請書の内容については、どういう項目を……。

○小倉尚裕委員長 教育委員会事務局教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 項目としては、氏名、保護者名、あとは、実際に行く期間、活動場所、内容等について、記載していただくという形を取りたいと考えています。

○小倉尚裕委員長 藤田委員。

○藤田誠委員 実施時期ですが、試行期間として11月から実施するということですから、取得できる日数は何日か。この資料によると、年度内に3日間と。試行期間でも取れるのか。

あと、申請まで1週間と言うけれども、子どもと話したら、明日計画して、明日行こうとなったときに、1週間前だからなかなか難しいと。できるだけ早く、簡潔

に、機が熟したときに行くのが一番いいですから、そこは、ちょっと考慮していただきたいなど。

さっきの質問1点だけ。

○小倉尚裕委員長 教育委員会事務局教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 取得日数ですが、今年度試行期間にあって3日間と考えております。

あと、今、藤田委員からあった、1週間前を原則とはしておりますが、急遽、計画を立てていきたいということも考えられますので、そこら辺は、臨機応変に対応してまいりたいと考えております。

以上です。

○小倉尚裕委員長 木下委員。

○木下靖委員 今後について、試行期間内に成果や課題云々というふうにあるんですが、これはラーケーション終了後に、報告ないしは報告書みたいなものの提出を求めるということなんでしょうか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 今、木下委員からありましたように、取得後に簡単なアンケートを提出していただくということを考えております。

児童・生徒、また、保護者からも御意見をいただき、今後に生かしていければと思っています。

以上です。

○小倉尚裕委員長 木下委員。

○木下靖委員 それは、来年4月の本格的な実施の場合も同じように考えていいですか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 同じようにアンケートを通して、年度内であっても改善を図っていければと思っています。

○小倉尚裕委員長 柿崎委員。

○柿崎孝治委員 定例会の翌日に新聞掲載がありました。父兄のほうへの伝達というのは、どういう形で伝わるんでしょうか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 こちらは学校を通し――教育委員会から発出される文書等と同じように、マチコミメールを活用して、保護者のほうに周知等していきたいと考えております。

以上であります。

○小倉尚裕委員長 柿崎委員。

○柿崎孝治委員 初めてやる取組なので、応募したいけれども、やってもいいのかわいのかというのがあり、実施しても最初なかなか出てこないかもしれないと自分

の中では思うんですけど、その方法というのは——マチコミメールという学校からの連絡の仕方があるんですけども、もしも応募がなかった場合の、再応募みたいなやり方というのも考えているんでしょうか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 今、マチコミメール以外でのいわゆる周知ということですけども、教育委員会では、校長会、PTA、市P連と懇談する機会等を設けてありますので、そこでも話題にし、引き続き、継続して周知していきたいと考えております。

○小倉尚裕委員長 教育長。

○工藤裕司教育長 先行して実施している自治体も、おおよそ3割前後ということで、我々、無理やり取りなさいということでの周知はするつもりはなくて、先ほど部長のほうからありましたけれども、土曜日に働いている御家庭は46%、日曜日は30%と。そういう御家庭において、平日に休みを取ってどこかに行きたいと、行ったことがない、そういう御家庭が行けるようにということです、全員に確実に周知してみんな取りなさいというようなことは考えていないと。

いま一つは、やはり不登校の子どもたちも、あまり平日に外には出ませんので、そういう子どもも堂々とラーケーションを使って、体験活動をしてほしいなということと考えております。

○小倉尚裕委員長 柿崎委員。

○柿崎孝治委員 このラーケーションが始まる前というか、現在でも、西高のおもてなし隊の子どもたちと話をしたり、地元の大学生と話をしても、やっぱり、子どものとき、親御さんで行ったいろんな遺跡やら観光地とかを勉強して、それを生かして、地域の活動をしている子どもたちもたくさんいると思うので、この取組というのは、とても大事なことだと思いますし、今やっていなくても、成長してやっている子ども——高校生とか大学生を小学校・中学校に招いて、私たちは小学校の頃にこういうふうな形で連れていってもらって今の自分が——のようなものを何か伝えてもらえれば、子どもたちもやりやすいんじゃないかなと。

だから、油川では獅子舞の保存会とかで、いろいろ出前授業とかを行っているんですけども、やっぱり、そこから活動を始めを考えるし、親御さんもそれを見て、やりたいと。あと、報道されると、ほかの地域のほうから参加したいというのが来たりするので、こういう取組をやった場合は、いい例として報道とかもしてと。

学校の勉強だけ——私は勉強ができないから、特に言うんですけども、こういう取組がすごく大切だと思うし、地域のために活動したいという思いのある子どもを育てていくのには、とてもいいことだと思っていますので、ぜひよろしく願いいたします。

○小倉尚裕委員長 村川委員。

○村川みどり委員 今までも、平日に休暇として休んで——例えば、ディズニーランドに行く人だっているし、だから今回、そうやっていた人たちが休暇扱いにならずに出席扱いにしてもらって行ける、というところが変わったところだと思っているんですけども、そういう認識でよろしいですか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 今、村川委員があつたように、確かに現在も休みを取って行っている例はあります。

ですので、それを今委員おっしゃったように、出席扱いとして、保護者と児童・生徒と一緒に計画を立てて、学びの場を広げていただきたいということで実施するものであります。

○小倉尚裕委員長 村川委員。

○村川みどり委員 ということは、その申請書に——子どもとディズニーランドに行くのでラーケーションします、という目的でも大丈夫ということですよ。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 おっしゃるとおりです。

○小倉尚裕委員長 村川委員。

○村川みどり委員 あと、私の周りの受け止めは、半分半分なんです。いいという人もいるし、これがあつても、結局金銭的な問題があつて行けないという親も、もちろんいます。なので、半分半分ぐらいなんです。やってみて検証するというのはもちろん必要だと思うし、現在、もう既に申し込んだよという家庭もいるんですけども、どのぐらい申し込んでいるか把握していますか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 今現在の状況については、ちょっと手元にデータがないので、後で分かり次第ですね……。

○小倉尚裕委員長 村川委員。

○村川みどり委員 もう既に、南国のほうに行くので申し込んだよという人もいて、それを聞いて、割と歓迎されている部分もあるのかなというのは、ちょっと感じました。あと、熊が出たから、今日は休ませるよという場合もあると思うんですよ。実際に、それで使いたいという人も中にいて、そういう場合はどうなりますか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 今現在も、熊が出たことを理由に、登校を控えている場合につきましては、ウェブでの授業等で補うということで、出席扱いにしておりますので、このラーケーションに限らずに出席扱いにしているという現状であります。

○小倉尚裕委員長 村川委員。

○村川みどり委員 私自身も、平日休んでとかという経験があまりなかったので、いいのか悪いのかも判断できないし、行けない家庭ももちろんあるので、そういう

ところの配慮も必要なのかなというふうには感じています。

見守っていきたいと思います。

○小倉尚裕委員長 柿崎委員。

○柿崎孝治委員 私は、前職のときに平日が休みだったので、もう、かれこれ 30 年ぐらい前になるので、学校を休ませてまで行くというのは、すごく抵抗があったけれども、その後の父兄の方たちを見ると、やっぱり普通に自分の家庭の都合で動いているというのがもう見えてきているんですけれども、いろいろ取組をされている中で、この考え方はいいと思うし、近場——市内でも、いろんな観光というか、勉強する場所もあるし、県内でも、いろいろあると思うので、なんか考えている人はいろんなことができると思うので。

今の子どもたちは、みんなすごく調べるのが速いので、いろいろ勉強する中で、父兄の方と相談して、調べたところにお金をかけないで休んで行く——戻ってきても、また次の日に行くとか、例えば、三内丸山遺跡とか、油川まで行くとすれば、1 日見ても足りないので、何日もかけて勉強するということもできるので、本当に親御さんと休みの日とかに行けるのは、すごくいい取組だと思いました。

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小倉尚裕委員長 なければ、質疑はこれにて終了いたします。

次に、「令和 7 年度『平和と防災を考え、受け継ぐ集い』について」報告を求めます。教育委員会事務局教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 令和 7 年 9 月 30 日に「平和と防災を考え、受け継ぐ集い」を開催しましたので、その概要について御報告いたします。

配付資料を御覧ください。

趣旨といたしましては、釜石市への派遣生徒による体験報告や、代表児童・生徒の感想交流を通して、参加者が過去に起こった悲惨な出来事や、被災した人々の思いを実感することで、一人一人が命の尊さを改めて考え、代表生徒が自校の生徒に平和と防災の大切さを伝えられるよう、市総務部総務課と教育委員会事務局指導課が主催し、去る令和 7 年 9 月 30 日火曜日に青森市立造道中学校体育館を会場として開催いたしました。

当常任委員会の委員の皆様にも御参加いただき、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。

当日は、造道中学校の全校生徒や釜石市への派遣生徒、市内中学校の代表生徒、造道中学校区学校運営協議会委員や町会長等のほか、造道小学校と小柳小学校の 6 年生児童によるオンライン参加を含め、約 750 名が参加しております。

主な内容といたしましては、釜石市への派遣生徒による体験報告、市長からの平和・防災学習事業修了証書の贈呈、参加者による感想交流、造道中学校生徒会による平和宣言、曲目「糸」、「翼をください」の合唱、最後に教育長による講評を行い

ました。

参加児童・生徒からは、私は昨年、釜石市への派遣生徒でした。昨年は学んで伝える側でしたが、今年は聞く側としての参加でした。一瞬にして沢山の命が奪われる、悲惨な戦争を体験した方々が少なくなっている今、このような集いを実施し、後世に受け継いでいくことで、より平和に近づけると思いました、また、ほかの児童・生徒からは、私は、防災についての発表が特に印象に残っています。今まで、地震が来たらここに逃げよう、などと家族とは話していました。しかし、発表の中で防災センターに避難した方々の半分以上が津波により犠牲となってしまったことを知り、ただ避難所に逃げるだけで終わりにするのではなく、その後のこともきちんと考え、話し合い、自分の命は自分で守れるようになりたいです、などの感想が寄せられております。

教育委員会といたしましては、平和と防災の大切さを学び、受け継いでいくこの取組について、今後も継続してまいりたいと考えております。

報告は以上であります。

○小倉尚裕委員長 まず、村川委員、相馬委員、本当に出席ありがとうございます。ただいまの報告についての御質疑・御意見等がありますか。工藤委員。

○工藤タ介委員 非常に重要な取組で、素晴らしい取組であると思います。

今後について、明年とか、具体的に実施について決まったところはあるのでしょうか。

○小倉尚裕委員長 教育部長。

○武井秀雄教育委員会事務局教育部長 平和防災学習事業につきましては、今後におきましても、平和の尊さを学ぶ事業として継続してまいりたいと、現段階では考えております。

以上であります。

○小倉尚裕委員長 工藤委員。

○工藤タ介委員 ぜひよろしく申し上げます。以上です。

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。村川委員。

○村川みどり委員 感想を述べたいと思います。

かなり練習して準備したんだろうなあというような感じもしたんですけれども、子どもたちの発表は、とても素直でいい発表だったなと思います。ただ、やっぱり、広島・長崎の原爆の悲惨さを学ぶ機会って必要だと思うんですよね。そこが抜けての平和ということを考えると、ちょっと物足りなさを感じる部分が、私にはありました。

唯一の被爆国の日本が経験したことを学んで、さらに、青森空襲とかにつなげていくんだったらいいんだけど、そこが抜けての青森空襲になると、ちょっと浅い平和教育になっちゃうんじゃないかなというふうに、私自身は感じながら聞いてたんですけれども、この取組自体を否定するわけじゃないんですけれども、やっぱ

り、広島・長崎のことを学ぶ機会も必要なんじゃないかなというのは、集いに参加して、改めて強く思ったって感じです。

以上です。

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小倉尚裕委員長 なければ、質疑はこれにて終了いたします。

そのほか、理事者側から報告事項などありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小倉尚裕委員長 また、委員の皆さんから、御意見等ありませんか。村川委員。

○村川みどり委員 アリーナの駐車場のことなんですけれども、最近、土日になれば催しをいっぱいやられていて、バスが出るんですけれども、あれ、30分に1回しか出ていなくて、それに乗り遅れば30分待たなきゃ駄目で、結局歩いたほうが速いということになって、循環バスとして何の意味もなしていないので、もしバスを出すのであれば、10分置きとかで出さないと、連絡バスの意味がないので、その30分置きのところは、ぜひ検討してもらえればなというふうに思います。

○小倉尚裕委員長 経済部理事。

○工藤拓実経済部理事 シャトルバス等々は、基本的にイベント主催者のほうで対応をしているものになりますので、今いただいた意見を主催者側に御相談させていただいて、協議させていただきたいと思います。

〔村川委員「お願いします」と呼ぶ〕

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。柿崎委員。

○柿崎孝治委員 小牧野遺跡が、熊出没で早く閉めることになったんですけれども、その告知というのは、ホームページを見ると分かるんですけれども、いろんなところに看板出ています。三内丸山遺跡を出たところも、左と書いているけれども、休みとかは書いていないので、行ってしまう可能性がある。

木下委員たちが前に言っていた、ねぶたん号に乗って、県立美術館に行ったら、休みだった、ということになってしまう可能性があると思います。だから、主要なところとか近所——高田のほうに入ったら、今休んでいてあっちの学びのほうはやっています、みたいなものをつけたほうがいいと。やっぱり、秋の行楽シーズンで、いろんな人たちが入ってきて、せっかく行ったら、やっていなかったと、こんな山奥まで来たのにとかというふうになる可能性もあるので、そのところ、青森市の役所の立場じゃなくて、観光客の立場っていう目線で考えてもらいたいですけれども、その辺よろしく願いいたします。

以上です。

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。柿崎委員。

○柿崎孝治委員 ホタテなんですけれども、ほかの地域では、いろいろと報道されています。青森市では、静かなんですけれども、調査待ちだと思うんですね。

でも、ほかのむつ市とかは先に見てしまっていて、ただ、発表になっていないくらいだと思うんですけども、青森市では、現状を把握しているんでしょうか。

○小倉尚裕委員長 農林水産部長。

○大久保文人農林水産部長 漁業協同組合でも、個別に潜水調査などしながら、状況は見ているということで聞いております。また、今年の海水温も、例年に比べ、24度、25度を超える日が、過去3年間でも一番長いという状況で、ホタテ養殖もかなり厳しい状況だということで私のほうも認識しています。

私ども、今年度に議会の議決をいただきながら、先行して、母貝の確保などのホタテ漁業者への支援などを打って出ております。今後、また漁業者の皆さんから、実際にお声を聞く機会を設けながら、しっかり対応していきたいというのが今の現状であります。

○小倉尚裕委員長 柿崎委員。

○柿崎孝治委員 青森市の漁業協同組合の元支所で、母貝を放流していたんですけども、死んだのはないけれども、いなくなっている。普通は、貝が死ぬと海底に落ちているんですけども、それがなくて、どっかに移動して育っているんじゃないかという、昔からある定説なんですけれども、ある時期になると、ホタテがいっぱいいる場所があって、それが、今度行けばいないとかということがあるので、生きている母貝というか、貝は確かにいるんじゃないかと言われている。ラーバも発生しているということは、そういうのが生きているからという話になっていました。

ただ、今、議論されているのが、陸奥湾のあちこちで獲れなくなって、北海道から持ってきたり。それで、これも昔から定説があって、あっちから持ってくるやつは、貝毒が絡むから絶対まいねというのがあって、若い人たちからすれば、そういう都市伝説みたいなのではなくて、根拠を持って、ちゃんと調べてほしいというのが——まあ、これも難しいかなと思うんですけども、今も、それが話に出てきているらしいです。

だから、陸奥湾全体のことを考えると、勝手に持ってきて、持ってきたから貝がおかしくなったとかという話にもなりかねないところもあるんですけども、やっぱり、漁師とコミュニケーションを取っていってもらえれば、それも解消されると思います。

何も話を聞かないで、どうしたって急にきて、まいねとなれば駄目だと思うし、もうかなり生活が苦しいところがあると思いますので、11月の調べる前とか、何かしら市長が行動に移して——報道に出さないと分かんないんですよ。むつ市長ばかり話題に出せば駄目なんですけれども、むつ市長ばかり報道されるとみんなしゃべっているんです。だから、そのところを、市長が強く動いて、行動を可視化するということが必要だと思いますので、よろしくお願いします。

○小倉尚裕委員長 ほかに発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小倉尚裕委員長 この際、私から申し上げます。

本委員会の視察についてであります。先般、事務局を通して、お知らせしておりますとおり、11月4日、5日、6日の日程で神奈川県横須賀市及び神奈川県横浜市において、行政視察を実施いたしますので、委員の皆様におかれましては、何とぞよろしくお願いいたします。

あと、今日の午後ですけれども、弘前市のＪＡつがる弘前農協の選果場及びやさい育苗センター。これは日本で1番大きい選果場、青森市浪岡地区の選果場の3倍以上大きい——世界一はニュージーランドですので、東洋一大きい選果場の視察と、あと、リンゴ園地。丸葉、矮化、そして、高密植と、県からリンゴの主要品目の植栽の委託を受けている園地の視察に行つてまいります。

ちょうど今は、早生ふじ、王林の収穫時期であり、そして、主力のふじの葉取りの時期となっていますので——農林水産部長も一緒に行ければよかったですけれどもね、ＪＡつがる弘前農協のほうでも、理事の上役の役員の方が同席をして、待っていましたので、皆さんで行ってきたいと思っています。柿崎委員から、ぜひ現場を見たいとありましたので行つてまいります。

以上をもって、本日の案件は全て終了いたします。

(会 議 終 了)